



令和5年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

令和4年11月9日

上場会社名 株式会社 御園座 上場取引所 名
 コード番号 9664 URL http://www.misonoza.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)宮崎 敏明
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員総務経理部長 (氏名)島田 治彦 (TEL) 052-222-8202
 四半期報告書提出予定日 令和4年11月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和5年3月期第2四半期の業績(令和4年4月1日~令和4年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年3月期第2四半期	978	△2.8	△80	—	△86	—	△141	—
4年3月期第2四半期	1,006	—	△263	—	△268	—	△143	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年3月期第2四半期	△28.36	—
4年3月期第2四半期	△28.91	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
5年3月期第2四半期	6,075	4,297	70.7
4年3月期	6,277	4,440	70.7

(参考) 自己資本 5年3月期第2四半期 4,297百万円 4年3月期 4,440百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年3月期	—	—	—	0.00	0.00
5年3月期	—	—	—	—	—
5年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和5年3月期の業績予想(令和4年4月1日~令和5年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,520	22.8	130	—	120	—	100	△68.9	20.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	5年3月期2Q	4,984,500株	4年3月期	4,984,500株
② 期末自己株式数	5年3月期2Q	5,194株	4年3月期	5,194株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	5年3月期2Q	4,979,306株	4年3月期2Q	4,979,362株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
3. その他	10
(継続企業の前提に関する重要事象等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、景気及び個人消費は緩やかに持ち直しの動きがみられる状況で推移いたしました。

当社におきましては、徹底した感染拡大予防対策を実施し、座席数の制限や客席・ロビーでの食事の禁止などの対策を継続し、お客様と公演関係者の安心・安全を最優先に考え、安心してご来場いただけるよう努め、その中で引き続きお客様の嗜好に合わせた公演の実現、観客動員の維持も図りながら、注意深く上演していくことが課題となりました。6月の舞台『千と千尋の神隠し』が一部公演中止や7月の『山里亮太の140愛知公演』の中止を除く、大半の公演を上演することができました。

今後につきましても、感染拡大の防止策を徹底し、社会経済活動のレベルが段階的に回復する中、まだ当面は厳しい状態が続くものと見込まれますが、徐々に公演数及び観客動員の拡大を図りながら、お客様に喜んで頂ける公演を増加させていく予定であります。

当社は、以下の通り、令和4年4月から9月までに公演を16種類、上演日数として78日間、上演回数として111回（前年同期133回）の実施を致しました。

<当第2四半期累計期間の上演実施作品>

公演名	上演期間	上演日数	上演回数
陽春花形歌舞伎	4月15日～24日	10	18
坂東玉三郎コンサート	5月7日～8日	2	2
北島三郎 御園座ファイナルコンサート	5月13日～15日	3	3
漫才サミットin名古屋	5月22日	1	1
坂東玉三郎 特別舞踊公演	5月27日～29日	3	3
ミュージカル『四月は君の嘘』	6月9日～12日	4	5
舞台『千と千尋の神隠し』	6月22日～7月4日	5	5
梅沢富美男・研ナオコ特別公演	7月9日～17日	9	13
山内恵介 恵音楽会2022	7月23日～24日	2	3
よしもと祭り10公演	7月26日～31日	6	10
夏休み！！！！吉本新喜劇&バラエティ公演	8月2日～7日	6	11
超歌舞伎2022 Powered by NTT	8月13日～16日	4	8
ミュージカル『流星の音色』	8月21日～28日	8	10
氷川きよし特別公演	9月5日～15日	11	15
鶴瓶御園座独演会	9月17日～18日	2	2
舟木一夫御園座特別コンサート2022	9月22日～23日	2	2
合計		78	111

(上演日数には休演日も含みます)

〈公演中止となった当第2四半期累計期間の上演予定作品〉

公演名	上演期間	上演日数	上演回数
舞台『千と千尋の神隠し』	6月25日～7月3日	8	12
山里亮太の140愛知公演	7月29日	1	1
合計		9	13

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は、9億7千8百万円（前年同期は10億6百万円）となりました。売上高は減少し、利益面では、営業損失8千万円（前年同期は営業損失2億6千3百万円）、経常損失8千6百万円（前年同期は経常損失2億6千8百万円）、四半期純損失1億4千1百万円（前年同期は四半期純損失1億4千3百万円）となりました。

なお、当第2四半期累計期間に予定していた6月の舞台『千と千尋の神隠し』の一部公演中止や7月の『山里亮太の140愛知公演』が中止となったことから、当該公演にかかる制作費・キャンセル料等を公演中止損失及び臨時休業等による損失として特別損失に計上しております。

当社の報告セグメントは劇場事業単一セグメントでありますので、セグメント別の記載は省略しております。

（2）財政状態に関する説明

① 資産・負債及び純資産の状況

（資産の部）

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は、8億1千5百万円となり、前事業年度末に比べ7千3百万円の減少となりました。この主な要因は、現金及び預金が1億8千9百万円増加、売掛金が4千9百万円増加、未収入金が3億1千5百万円減少したことによるものであります。固定資産の残高は、52億6千万円となり、前事業年度末に比べ1億2千7百万円の減少となりました。この主な要因は、建物及び構築物が6千万円、機械及び装置が4千5百万円減少したことによるものであります。この結果、総資産は、60億7千5百万円となり、前事業年度末に比べ2億1百万円の減少となりました。

（負債の部）

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は、6億6百万円となり、前事業年度末に比べ6千7百万円の増加となりました。この主な要因は、未払法人税等が6千5百万円減少、前受金が7千9百万円増加、買掛金が1千3百万円増加、未払金が3千4百万円増加したことによるものであります。固定負債の残高は、11億7千2百万円となり、前事業年度末に比べ1億2千5百万円の減少となりました。この主な要因は、長期借入金1億1千4百万円減少したことによるものであります。この結果、負債合計は、17億7千8百万円となり、前事業年度末に比べ5千8百万円の減少となりました。

（純資産の部）

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、42億9千7百万円となり、前事業年度末に比べ1億4千3百万円の減少となりました。この主な要因は、利益剰余金が1億4千1百万円減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べて1億8千9百万円増加し、6億2千7百万円となりました。

〔営業活動によるキャッシュ・フロー〕

営業活動によるキャッシュ・フローは、3億1千万円の収入（前年同期は4千9百万円の支出）となりました。これは、主に補助金の受取額の3億2千万円（前年同期は4千9百万円）によるものです。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資活動によるキャッシュ・フローは、1百万円の支出(前年同期は4百万円の収入)となりました。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億1千9百万円の支出(前年同期は1億9千5百万円の収入)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出1億1千4百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和5年3月期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点において令和4年5月13日付「令和4年3月期決算短信」にて発表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和4年3月31日)	当第2四半期会計期間 (令和4年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	438,007	627,491
売掛金	96,200	145,541
貯蔵品	5,264	1,783
未収入金	320,468	4,995
その他	29,320	35,871
流動資産合計	889,260	815,682
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,455,593	2,395,520
機械及び装置（純額）	630,009	584,515
土地	2,124,656	2,124,656
その他	105,699	91,380
有形固定資産合計	5,315,958	5,196,072
無形固定資産		
	21,972	17,050
投資その他の資産		
投資有価証券	41,843	39,720
その他	9,022	8,115
貸倒引当金	△739	△739
投資その他の資産合計	50,126	47,096
固定資産合計	5,388,057	5,260,220
資産合計	6,277,318	6,075,902

(単位：千円)

	前事業年度 (令和4年3月31日)	当第2四半期会計期間 (令和4年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	50,223	63,818
1年内返済予定の長期借入金	229,988	229,988
未払金	19,024	53,029
未払法人税等	77,122	11,442
前受金	147,511	227,234
その他	14,492	20,573
流動負債合計	538,362	606,087
固定負債		
長期借入金	1,024,181	909,187
繰延税金負債	251,322	244,201
退職給付引当金	4,812	5,492
その他	17,718	13,339
固定負債合計	1,298,034	1,172,220
負債合計	1,836,397	1,778,307
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,271,937	2,271,937
資本剰余金	2,137,621	2,137,621
利益剰余金	60,016	△81,186
自己株式	△39,817	△39,817
株主資本合計	4,429,758	4,288,555
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11,163	9,039
評価・換算差額等合計	11,163	9,039
純資産合計	4,440,921	4,297,595
負債純資産合計	6,277,318	6,075,902

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)
売上高	1,006,578	978,407
売上原価	979,309	750,810
売上総利益	27,269	227,597
販売費及び一般管理費	290,887	307,692
営業損失(△)	△263,618	△80,094
営業外収益		
受取配当金	1,026	1,063
受取保険金	2,502	-
その他	1,357	579
営業外収益合計	4,886	1,643
営業外費用		
支払利息	9,285	7,013
その他	889	914
営業外費用合計	10,175	7,927
経常損失(△)	△268,907	△86,379
特別利益		
補助金収入	229,263	-
特別利益合計	229,263	-
特別損失		
公演中止損失	71,645	42,256
臨時休業等による損失	31,806	19,199
投資有価証券評価損	363	-
特別損失合計	103,815	61,455
税引前四半期純損失(△)	△143,460	△147,835
法人税、住民税及び事業税	488	488
法人税等調整額	-	△7,121
法人税等合計	488	△6,632
四半期純損失(△)	△143,948	△141,202

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失 (△)	△143,460	△147,835
減価償却費	125,496	125,477
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,291	-
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	2,393	680
受取利息及び受取配当金	△1,026	△1,064
受取保険金	△2,502	-
支払利息	9,285	7,013
投資有価証券評価損	363	-
公演中止損失	71,645	42,256
臨時休業等による損失	31,806	19,199
補助金収入	△229,263	-
売上債権の増減額 (△は増加)	24,056	△49,341
未収入金の増減額 (△は増加)	△1,461	△4,984
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△10	3,480
仕入債務の増減額 (△は減少)	31,673	13,594
未払又は未収消費税等の増減額	25,252	10,745
前受金の増減額 (△は減少)	47,260	79,723
その他	△8,406	5,851
小計	△15,606	104,798
利息及び配当金の受取額	1,026	1,064
利息の支払額	△9,289	△7,016
公演中止による支出	△68,790	△42,090
臨時休業等による支出	△10,078	△6,637
補助金の受取額	49,574	320,457
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	3,368	△60,557
営業活動によるキャッシュ・フロー	△49,795	310,018
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	-	△670
その他	4,629	△555
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,629	△1,225
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	500,000	-
短期借入金の返済による支出	△200,000	-
長期借入金の返済による支出	△100,000	△114,994
リース債務の返済による支出	△4,252	△4,315
その他	△42	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	195,705	△119,309
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	150,539	189,483
現金及び現金同等物の期首残高	240,174	438,007
現金及び現金同等物の四半期末残高	390,714	627,491

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

3. その他

(継続企業の前提に関する重要事象等)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束しなかったものの、当社は感染対策の徹底を図り、6月の舞台『千と千尋の神隠し』が一部公演中止や7月の『山里亮太の140愛知公演』の中止した他は、当第2四半期累計期間において予定していた大半の公演を上演することが出来ました。これにより、当第2四半期累計期間の売上高は9億7千8百万円と前年同期に比較してほぼ同水準になりました。しかしながら当第2四半期累計期間においても営業損失及び四半期純損失を計上したことで、連続赤字となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が続いております。

このような状況の中、予定されている公演についても、引き続き感染対策を十分に行ったうえで継続しております。また、当第2四半期会計期間末の現金及び預金の残高に加え、資金計画に基づき取引金融機関と協議を行い、適切に運転資金を確保する計画を実行しており、当該事象の解消が十分実現できるものと考えております。

以上の通り、重要事象等の解消は可能と考えており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」は記載しておりません。